

IoT時代の農機イノベーションセミナー 2017 札幌

～よくわかる ISOBUS 技術の導入と応用～

近年農業機械は、農業生産者の担い手不足や一戸当たりの圃場面積の拡大に伴い、より一層の省力化・自動化・効率化が求められています。

それらに必須な電子制御の農機への導入には、異なるメーカーのトラクターと作業機の組み合わせでの互換性の確保や、各作業機の制御で必要となる操作端末やセンサなどの共有化によるコストダウンなどの課題が生じます。早くからこれらに取り組んできた欧米では、その解決策として機器間の通信規約を国際規格 (ISO 11783) 化し、またこの規格に基づく業界標準 ISOBUS のガイドラインや認証により互換性保証を行っています。国際市場では ISOBUS 対応は当たり前前の技術となっています。

ISOBUS では、操作端末の統合化やトラクター情報を用いた作業機の連携制御は勿論、作業情報の自動記録や自動運転などもサポートされています。自動化など、より高度な制御機能を農機に付加していく際、この規格をうまく活用することで最低限の開発期間・コストで対応することが可能になります。

また自動運転などに対応する上でもう一つ重要な事項が安全対応です。製造者責任を担保するためには適切な安全分析や故障時対応などが必要になります。農機では安全対応を評価する為の国際規格 (機能安全規格) ISO 25119 があり、海外ではそれに対応した農機の市場投入も始まっています。国内でも徐々に機能安全対応を見据えた開発が始まっています。

本セミナーでは、平成 26 年度～28 年度 経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業採択「農業機械のさらなる高度化と海外進出に資する次世代電子制御ソフトウェア基盤の開発」プロジェクトの研究成果を踏まえて、ISOBUS の対応方法や、機能安全対応の相場観などを解説いたします。是非ご参加いただくと幸いです。

記

日時：2017 年 2 月 13 日 (月) 14:00～16:30 (13:30 受付開始)

場所：札幌国際ビル 8 階 国際ホール

住所：札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1 番地

(アクセス：札幌市営南北線 さっぽろ駅 8 番出口横すぐ)

参加費：無料

定員：50 名

対象者： ・ ISOBUS やその導入方法に興味をお持ちの方
・ 農機の機能安全対応に興味をお持ちの方

内容：

14:00～14:05 開会の挨拶

14:05～14:30 「国際標準対応の重要性」

農研機構 農業技術革新工学研究センター 上級研究員 元林 浩太

14:30～15:00 「新たなサービスを実現する ISOBUS と次世代 ISOBUS の魅力」

株式会社ヴィッツ 応用技術部 部長

兼 本プロジェクト 総括研究代表者 和田 学

15:00～15:30 「ISOBUS と圃場管理システムとの連携利用」

アーク・システム・ソリューションズ株式会社 研究開発課 課長

兼 本プロジェクト 副総括研究代表者 藤村 博秀

15:30～15:40 (休憩)

15:40～16:00 「これで大丈夫！農機機能安全への対応」

株式会社アトリエ 取締役 水口 大知

16:00～16:25 「ISOBUS 対応作業機開発チュートリアル」

16:25～16:30 閉会の挨拶

主催：株式会社ヴィッツ、株式会社アトリエ、アーク・システム・ソリューションズ株式会社

後援：北海道農業機械工業会、農研機構 北海道農業研究センター、

北海道立総合研究機構 工場試験場、北海道農政部、

北海道大学 産学・地域協働推進機構、苫小牧工業高等専門学校

【参加申込方法】

下記 WEB サイトよりお申込みください。(申込期限：2 月 3 日 (金))

<https://www.witz-inc.co.jp/isobus-seminar2017/form.php>